

BIBLE + MESSAGE

愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし知恵のある者は忠告を聞き入れる。(箴言 12章 15節)

この御言葉は「愚か者」と「知恵のある者」について言及しています。両者の違いは一体どこにあるのでしょうか。それは、他人の忠告を聞き入れるか、聞き入れないか、にあります。

愚か者は自分の道、自分の考えこそが絶対に正しいと考えます。そのため、他の人の忠告を聞き入れようとしません。一方、知恵のある者は自分の道が絶対に正しいとは考えません。他の人の忠告を聞き入れ、より良い道、本当に正しい道はどこなのかを探ろうとします。これが聖書が教える「知恵のある者」なのです。

これを自分自身に当てはめてみましょう。私はどっちだろうか？知恵のある者！と言いたいところですが、案外と「私は正しい！」と考えてしまうことが多いことに気づかされます。もっと他の人の忠告を聞き入れなくては…。一年の始まりに、この御言葉を覚えたいと思います。ところで、私たちがもっとも忠告を聞かなければならない相手とは、一体誰なのでしょう？



- ◆名鉄バス「日名町」前
- ◆愛知環状鉄道「北岡崎駅」から西へ徒歩3分
- ◆アビタ北岡崎店 筋向かい



スマホで上記のQRコードを読み込むと地図を表示できます。

【日曜学校】日曜：午前10時～10時45分 【礼拝】日曜：午前11時～12時半
【午後の集会】日曜：午後3時～4時半 【聖書研究会】木曜：19時半～21時

聖書を読んだ日本人

(前号からの続きです)

デシーザーはかつて、東京爆撃隊の爆撃手でした。日本軍に捕われたデシーザーは、獄中で虐待を受けるなかで、なぜ人間同士がこゝも憎み合わなければならぬのかと考えていました。その時、彼はかつて聞いたことのある、人間同士の憎悪を真の兄弟愛に変えるキリストの教えを思い出したのです。「私は聖書を調べてみよう」という不思議な欲求にとらわれた。デシーザーの手記のなかにはそのような書かれていました。

彼らをしていました。そのようななか、彼の目にあることばが入ってききました。それはルカの福音書23章34節のことばでした。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分ではわからないのです。」その時、淵田の脳裏に、アメリカ人の娘さんの話がハッとひらめきました。これはキリストが十字架の上から、自分に槍を突きつけようとする兵士たちのために、天の父なる神様にささげた、とりなしの祈りです。



淵田とデシーザー

敵を赦すことができる博愛。淵田はその時、アメリカ人の娘さんの話をはっきりと理解することができたのです。日本兵に切られる前の彼女の両親の祈りは「神様、彼らを赦すことができる博愛。淵田はその時、アメリカ人の娘さんの話がハッとひらめきました。これはキリストが十字架の上から、自分に槍を突きつけようとする兵士たちのために、天の父なる神様にささげた、とりなしの祈りです。」



渊田 美津雄
(ふちだ みつお)

1902年～1976年